

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I G					単位	1.0
担当教員	武藤 敦士						
授業形態	実技・実習	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	2320

●授業のテーマ

ソーシャルワーク実習の意義－社会福祉士の専門業務への理解

●到達目標

実習・実習指導の意義および現場における社会福祉士の業務の実際を理解し、社会福祉士に求められる資質・能力を習得するための自己の課題を明らかにする。福祉施設等における利用者等の人権への配慮や守秘義務など、現場の業務において必要な配慮を行うことの意味と実際のあり方を理解する。

●学習内容(授業概要)

個別・集団指導を通して、社会福祉士に求められる専門的な知識や技術等への理解を深め、各自の関心や力量形成に向けた課題を明確にする。

実習・実習指導の意義、現場の様々な事業・サービスのなかで社会福祉士が担っている業務の実際に関する学習、業務において必要な人権・倫理的配慮等の周知、実習に向けた各自の関心・課題の具体化などを行う。

●学習内容(授業計画)

1. 実習・実習指導における個別・集団指導の意義
2. 実習に向けた各自の関心について
3. 各自の学習・成長課題について
4. 社会福祉士をめぐる職業像
5. 社会福祉士の倫理綱領
6. 社会福祉士の専門業務の実際 ①福祉施設
7. ②福祉行政、地域福祉
8. ③関連領域との連携
9. 現場の事業・サービスに関する実践的な理解
10. 現場業務に関する学習から具体的に学んだこと
11. プライバシー保護、守秘義務等の意味と実際
12. 各実習分野の概要と選択希望について ー全体オリエンテーション
13. 実習に向けた関心の具体化 ①高齢者・障害者・児童分野
14. ②地域・行政・医療福祉分野
15. 振り返りー今後の学習課題について

●準備学習・事後学習の内容

一連の授業に共通する準備として、社会福祉士をはじめ各福祉専門職の職務・配置に関する法・制度について基本的な知識を得ておく。事後には、実際の職務への理解をさらに深めると同時に、自己の資質や能力を高めていくための課題を明らかにする。

●成績評価方法・基準

次の2点を目安として総合評価する。

- ・学習や発表の内容、集団討議への参加姿勢（3割程度）
- ・レポート課題等の提出と内容（7割程度）

●テキスト（必携）
授業時に指示する。

●参考文献／その他
『ソーシャルワーク実習の手引き』（本学で配布予定）
その他、プリント・資料等を授業時に配布する。

●履修上の注意

他の職種とも比較しながら自分が社会福祉士を目指すことの意味を考え、必要な学習に取り組むと同時に、自己の資質・能力を高める自覚を持つこと。